

本報では以上の結果を総合するとともに金属箔を用いたモデルによって透湿実験を行ない、この結果と被服材料の透湿性とを対比させて検討し、被服材料の透湿機構の解明を中心とした考察を行なうことを目的とした。

2. 方法 吸湿・放湿過程をとらず気孔のみによる透湿性を測定するために、織物試料とほぼ厚みを揃えた金属箔を用いて織物の気孔量の差異に対応した気孔量をもつ試料を作成し、既報と同様の方法により金属箔を用いたモデルによる透湿性を測定し、すでに得た被服材料を用いた結果と比較・検討する。

3. 成果 無風状態における被服材料の透湿機構は材料の吸湿・放湿過程と材料の気孔からの透湿とが総合されたものとしてあらわれるが、モデル実験で気孔と透湿との関係が明らかにされることにより、被服材料の吸湿・放湿と透湿との関係の説明がつき、したがって透湿機構が織物の構造との関係において推論できる可能性ができた。

B—26 被服材料の透湿性に関する研究 第5報 無風状態における透湿の機構

奈良女子大 丹羽 雅子

1. 目的 これまでの研究において、着用時の透湿条件に近い測定条件のもとで、被服材料の繊維の種類が異なる場合の透湿性と透湿挙動の差異について検討し、それらと被服材料の吸湿・放湿特性との関係を考察した。一方、被服材料の織物密度の相違が透湿性におよぼす影響、すなわち、織物の気孔量と透湿性との関係についてもすでに検討した。